

東与賀

higashiyoka

文責 田中泰司

佐賀市立東与賀中学校

生徒総会を見て 感じたこと

6月5日、生徒総会が開かれました。総会に向けての学級討議を経て全校での会を体育館で行いました。発言の音が小さい場面もみられましたが、緊張しながらも責任をもってクラスの意見を発表している人が多かったと感じました。

議長や受け答える生徒会役員は、臨機応変に対応しなければならず、とても大変だったと思います。難しさに負けず丁寧に議論を重ね意見を引き出そうとする頑張りが見られました。準備運営に尽力した三年生、公の場で積極的に発言した皆さん、また議論に参加した皆さんも含めお疲れ様と言いたいです。中でも感心したのは「提案」が多かったこと、それも下級生からも出たことです。話し合い、皆がある程度納得する「最適解」や「納得解」にたどり着くには、

時間と手間がかかるのだと皆で共通認識をもちましょう。私たちが暮らすこの日本では、民主主義国家では、その認識のもと、価値観が異なる相手とも粘り強く話し合う、つまりは対話を重ねることを大事にする姿勢が根底にあるのです。

これからも粘り強く対話を重ね、なにごとにも誰かに「やってみよう」「人任せの態度ではなく、「こうすればより良い生活を送ることが出来る（より良い学校になる）」という自分の考えを表明しましょう。言葉と通して新しい気づきや発見がきつと多くあるはずですよ。

最後の中体連、力を出し 切りやりぬこう！

6月2日、台風が接近している中で中学校総合体育大会地区大会の選手激励式が執り行われました。出張で参加できず、ビデオメッセージで応援の気持ちを伝えました。以下は式辞の内容です。

勝負は何が起るかわかりません。調子が悪くても相手が崩れて流れがくる時もありますし、その逆もあります。最大の敵は自分自身の気持ちです。勝負の流れを呼び込むために次のことを心がけてください。

まず、気持ちで負けないそのために自分にスイッチ入れます。特に一回戦は緊張が解けないままなので、いつも以上に動き、声を出して気持ちをオンにしましょう。二つ目が、練習でやってきたことを貫く。これまで積み重ねてきた練習を信じてください。

三つ目が、最後の最後までやり切る。自分より相手が強いと感じてもくらくらいついて絶対に諦めない。弱いと感じたら、気を抜かず自分のプレーで勝ち切ることで。その姿勢がトーナメントを勝ち抜くうえでとても大事です。そして四つ目は、自分のベストを目指す。特に陸上競技や水泳ですが、限界を感じてもまだまだ余力があるものです。残っている力を絞り出し、ベストを目指してください。

力にあまり差がない時には、勝ちたいと強く思う方が勝ちます。残された時間をしっかりと意識して過ごし、ベストの状態です合に臨んでください。部活動以外の社会体育や習い事に懸命に取り組んでいる人も多くありますが、自分の目標に向かって頑張っている全ての皆さんを応援しています！

突発性難聴の事 (前編)

皆さんご存じのように、私の左耳はほとんど聞こえません。それは突発性難聴という病気になったからです。ある瞬間から突然片方の耳の聴力が失われる原因不明の病気です。効果的な治療法や薬はありません。完全に聞こえないのではなく、特定の音域が聞きづらくなって耳鳴りにも悩まされます。

十三年前のある日、朝起きたら左耳に違和感があり、同僚の勧めですぐに耳鼻科を受診したところ、「聞こえるようになる確率は三分の一、このまま聞かない確率は三分の一」と言われました。驚いて残りの三分の一は？と尋ねたら「よりひどくなる確率です」と医者は答えました。ベッドが空くのを待って入院し、酸素加圧治療、ステロイド内耳注射と考える全ての対応をしましたが、再び聴力が戻ってくることはありませんでした。

いのかを尋ねたら「調子が悪くなったから来てください」と、「もう、やるべきことはやった。次のことを考えよう」と思わざるをえませんでした。左耳が聞こえないとどんなことが変わるのでしょうか？二人以上の人が話している時、その内容はまったく聞き取れません。

ドアの音など特定の音が大きく響いて聞こえるのに、他の音は全く聞き取れません。音楽は平板に聞こえますし演奏を聞きながら歌うのは伴奏が全く聞き取れないので歌えません。聞き取れないからなのか言葉を発する時に活舌（かつぜつ）が悪くなり、ろれつが回りません。話すこと、聞くことの両方がとても不自由になりました。運転にも影響が出たので、公共の交通機関が発達した場所へ引越しました。またずっと乗り続けていたバイクを手放しました。バイクの運転には車以上に音の情報が大きかったです。現在はこの生活にもほんの少し慣れましたが思ったより手こずっています。これまで出来ていたことができない焦りや苛立ち、喪失感を埋めることは容易ではありません。音楽を聴くことや生徒と合唱を練習することは大好きだったので、本当につらく感じます。バイクを降りたこともきつい決断でした。「聞こえない」状況を本当の意味で受け止めて自分の中で消化するにはまだ時間が必要なのでしょう。聞こえないことの辛さもありますが最もきついことは何だと思えますか？それは、「大丈夫だよ、治るよ」という言葉です。もちろん言っている本人には悪気は一切ありません。(後編へ)